

WEEKLY SIGNAL

平成30年9月28日(金) 1443号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	10/1(月)	10/2(火)	10/3(水)	10/4(木)	10/5(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,000	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 29,300	△ 8,000	△ 54,000	+ 2,000	△ 5,000
資金需給	△ 28,300	△ 8,000	△ 54,000	+ 1,000	△ 6,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(2年)	法人税・消費税・保険揚げ	法人税・消費税・保険揚げ 国債発行(10年)		
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,900 国債補充供給 + 2,900 CP等買入 △ 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,900				
(日本)	企業短期経済観測調査(9月調査)	マネタリーベース(9月) 短観「企業の物価見通し」(9月調査)		ラガルトIMF専務理事、記者会見 対外・対内証券投資(9月23日-29日)	毎月勤労統計(8月) 営業毎旬報告(9月30日現在) 景気動向指数(8月)
(海外)	米 アトランタ連銀総裁、講演 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 米 ボストン連銀総裁の講演 米 ISM製造業景況指数(9月) ユーロ圏 製造業PMI(9月、改定値) ユーロ圏 失業率(8月)	米 クオールズFRB副議長が 上院銀行委員会で証言 米 ハウエルFRB議長、講演 ユーロ圏 PPI(8月)	米 シカゴ連銀総裁、講演(ロンドン) 米 リッチモンド連銀総裁、講演 米 フレナートFRB理事、講演 米 ハウエルFRB議長、講演 米 ADP雇用統計(9月) 米 ISM非製造業景況指数(9月) ユーロ圏 サービス業・総合PMI(9月) ユーロ圏 小売売上高(8月)	米 クオールズFRB副議長、講演 米 製造業受注(8月) 米 新規失業保険申請件数 (9月29日終了週)	米 アトランタ連銀総裁、講演 米 雇用統計(9月) 米 貿易収支(8月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.025 ~ 0.070
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、395兆8,000億円から始まり、27日には財政等要因により394兆7,900億円まで減少した。週末28日には、国債買入オペを主因に同残高は増加し、395兆5,800億円となった。
無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.062%から始まり、その後は、△0.062%~△0.060%の狭いレンジで推移した。四半期末越えとなる28日には調達を控える動きから同金利は△0.064%まで低下した。ターム物は、9月末越えは1~2W物を中心に△0.025%~0%の出合。10月スタートは1~2W物を中心に△0.030%~△0.035%の出合がみられた。
FRBは、25日、26日に関したFOMCで政策金利を0.25%引き上げ、年2.0~2.25%にすることを決定した。
来週は国内では、日銀短観(9月調査)(1日)、海外では、パウエルFRB議長の講演(2日、3日)、米雇用統計(9月)(5日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.015 ~ 0.001
TDB 3M	△0.250 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約2兆400億円で、週間償還総額の約3兆9,400億円を大幅に下回った。発行市場は、月末日の償還(約3兆4,300億円)に対して新規発行は有利子負債の圧縮目的で7,100億円程度に止まったものの、27日の期初スタートでは約9,000億円の新規発行が確認されるなど事業法人のCPIによる資金調達意欲の強さが伺われる動きとなった。月末の発行市場残高は16兆円を割り込んだものの、前年同月比では約1兆9,000億円弱の増加となった。発行レートは、在庫玉確保と見られる動きもあって、マイナスから0%近辺の出合い。25日に、予定より500億円増額の5,000億円で実施された。結果は、按分落札レート△0.015%、平均落札レート△0.009%と前回(按分△0.016%、平均△0.010%)比で若干上昇した。来週の償還総額は、1,000億円程度となっている。多くの企業での発行再開から、発行超となるだろう。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、マイナス~0%近辺での出合いを予想する。4日には、CP等買入オペが2,000億円程度オファーされる予定である。

<TDB>

28日に行われた3M786回債入札は、最高落札レート△0.1860%(前回債△0.1082%)、平均落札レート△0.2031%(同△0.1142%)と前回からマイナス幅を大きく拡大した。来年1月9日償還となる為、年末越え特有の需要が強かった。セカンダリー市場でも堅調に推移し、△0.23%程度まで買い進まれた。1Y物にも買いが入り、新発債は△0.168%と先週末から3BP程度利回りが低下している。来週は10月5日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCIは週初△0.105%~△0.115%。期末跨ぎの取引となる28日受渡しは、△0.10%台後半から出合いが付き始め、一時△0.20%近辺まで低下。その後は△0.10%台前半~後半で取引された。週末は期末要因の剥落により、週初同水準の△0.11%近辺まで上昇した。
SC取引では、10年351回債が概ね△0.10%台半ば~△0.20%台前半の出合い。10年340回債・341回債は、先週同様△0.60%台で多く取引された。その他2年389・390・391・392・393回債、5年134・135・136回債、10年337・338・339・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年162・163・164・165回債、30年57・58・59回債、40年9・10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。